

野球ができる「当たり前」を喜びと感謝に！

SDGs 新潟地区 学童軟式野球大会



第3回大会 実施報告書

2020年 10月

SDGs新潟地区学童軟式野球大会
事務局

◆ SDGsとスポーツ(野球)を通じた新潟のこどもたちの健全育成

- ① 各チームの大会登録料から途上国のこどもたちに寄付を行うことで、こどもたちや保護者、大会関係者が国内外の状況を自分事を感じてもらう。
- ② SDGsを通じ、世界中の状況を知ること

 - ・ 今野球ができている「当たり前」を喜び、保護者への感謝の気持ちを育む。
 - ・ 国際問題を意識する、グローバルな視点を持つこどもの育成の一助とする。

◆ 地域全体でSDGsを考える組織作り

- ・ 国の推奨の元、2030年に向け企業が様々な取り組みを始めているSDGs。企業や団体、地域が一体となり取り組みを考える流れを、全国に先んじて作る。

◆ 6年生の目標となる大会

- ・ 小学6年生が夏休み後も目標を持って野球に臨める環境を作る。

※ 設立当初は新潟市内は夏休みの少年少女スポーツ大会を最後に、6年生を対象とした大きな公式戦がない状態でした。





大会概要

3

- ◆ 大会名 SDGs 新潟地区学童軟式野球大会
- ◆ 主催 SDGs 新潟地区学童軟式野球大会実行委員会
- ◆ 後援 新潟県教育委員会様 新潟市教育委員会様
新潟県野球協議会様
- ◆ 協力 BSN新潟放送 NPO法人新潟野球人
一般社団法人新潟市軟式野球連盟
新潟市西部地区野球連盟
新潟野球ドットコム 新潟東リトルシニア
NPO団体新潟予防医療実践会
新潟県女子野球連盟
- ◆ 景品提供 岩塚製菓株式会社様 北野屋様
- ◆ 大会期間 2020年 8月 29日(土)～ 9月12日(土)
／ 開会式 ※ 新型コロナウイルス拡大防止のためなし
決勝戦 9月12日(土) 新潟市西海岸少年野球場
- ◆ 試合会場 新潟市内野球場
新潟市西海岸公園少年野球広場
阿賀野川河川公園運動広場野球場 他
- ◆ 参加チーム数 16チーム(先着順) ※ 昨年度41チーム
- ◆ 参加登録料 8,000円 / 1チーム ※ 昨年10,000円
- ◆ 備考 各チームからの参加登録料の一部を「新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金」に寄付



第3回SDGs新潟地区学童軟式野球大会は

「3 全ての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」

「11 住み続けられるまちづくりを」

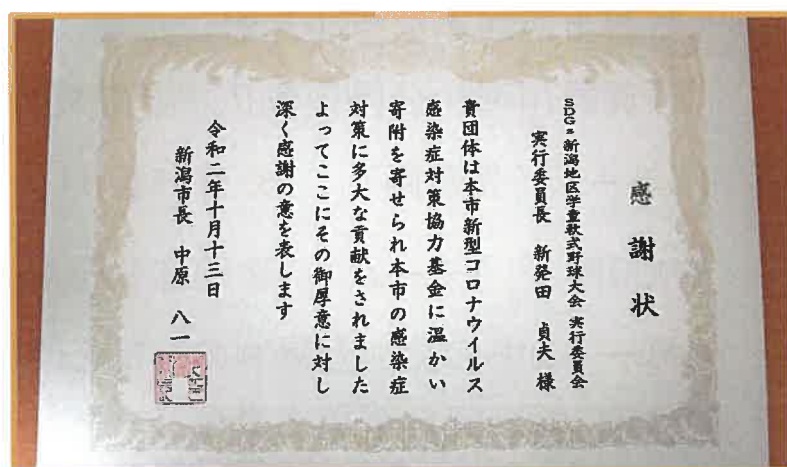
「17 パートナーシップで目的を達成しよう」

の達成と

SDGsの国内的な認知度向上や啓発、普及を目的に開催しました。

例年日本ユニセフ協会様の支援ギフトを活用し、各チームの参加費のうち3000円×チーム数分の経口ポリオワクチンを購入して途上国のこどもたちに寄贈して参りました。

今大会は情勢を鑑み、50,000円を「新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金」に寄付いたしました。



◆ SDGsの国内的な認知度向上や啓発、普及に対して

(1) 選手全員に配布するパンフレット内で

- ① 表紙に17の目標を掲出。
- ② の寄贈した内容を報告するとともに、

世界の問題を自分ごととして考えてもらえるよう、4つの事例を紹介。

◎ パンフレット

サイズ…A4 16ページ

色…表紙・裏表紙4C／中面モノクロ

発行部数…400部



▲ ①表紙(カラー)

② SDGs紹介ページ▶

大会の「SDGs(エスディーゼス)」って何??

SDGs(エスディーゼス)とは

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」 の略称です。

- 世界では5歳の誕生日を迎えられずに、はじまったばかりの人生を終えてしまう子どもが年間810万人もいます。その半数は「肺炎」「下痢」「マラリア」の3つの理由で命を落としています。日本では当たり前のように予防・治療できることが、当たり前ではない世界があるのです。
- 世界では22億人もの人々が、安心して飲める水が身近にありません。毎日800人以上の子どもたちが、汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としています。
(出典：日本ユニセフ協会ホームページ)
- 食べ残し、売れ残りや期限が近いなど様々な理由で、食べられるのに捨てられてしまう食品「食品ロス」。日本の食品ロス量は、年間800万トンを超え、毎日大型トラック(10トン車)約1,700台分の食品を廃棄しています。
(出典：政府広報オンライン 暮らしに役立つ情報「もったいない!食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らそう」)

日本を含め、世界には様々な問題がたくさんあります。

SDGsは、2015年9月に国連で開かれたサミットの川で、世界のリーダーによって決められた、これらの問題を解決するために、

「未来の子どもたちのために、世界の全ての国の人たちが、

みんなで力を合わせて達成しよう!」という17の目標です。

(17の目標はこのパンフレットの表紙にも書かれています。)

是非周りの人たちと話し合って、自分たちには何ができるのかを考えるとともに、いま野球ができていることは当たり前じゃないんだ、野球ができるのは幸せなのだ、と感じてもらえたら嬉しいです。

SDGs新潟地区学童軟式野球大会は、参加各チームからいただいた登録料から寄付を行っております。第1回(2018)と第2回大会(2019)では、日本ユニセフ協会を通じて、合計11,340回分のポリオワクチンを送るなどのこともために寄付いたしました。

今年度は状況を考慮し、登録料・賞金から一部を、新潟市の「新型コロナウイルス感染症対策協力基金」に寄付し、医療提供体制の整備や感染拡大の防止、市民生活及び地域経済の回復を図る一助として活用いただきます。



◆ SDGsの国内的な認知度向上や啓発、普及に対して

(2) 17の目標が掲げられた大会横断幕やユニホームを製作

- ① 参加全チームが横断幕を持って記念撮影
- ② 全試合会場において、横断幕を掲出
- ③ ①の写真を使用して、大会の広報TVCMを放映
- ④ スタッフのTシャツに17の目標を掲出

①



②



◆ SDGsの国内的な認知度向上や啓発、普及に対して



各チームのエントリー量から「新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金」へ寄付を行うことも、ご報告いたしました。

③ TVCM放映

…計2タイプ制作し、全チーム写真と後援団体様・ご協賛社様を紹介



④ 大会運営スタッフがゴールの書かれたTシャツを着用



SDGs①新潟地区学童軟式野球大会



SDGsとの関連 ⑤

8

◎ 大会ホームページ・facebookにて、大会趣旨や成績を紹介

■ ホームページ

<https://sdgs-niigata-gakudoyakyu.jimdofree.com>

SDGs 新潟地区 学童軟式野球大会

ホーム 最新情報 大会要項 大会名の「SDGs」って何? 大会概要
活動報告 リンク集 阿賀野川河川公園地図 お問い合わせ

野球ができる「当たり前」を感謝と喜びに!

【トピックス】大会参加費の一部を寄付させていただきました

新型コロナウイルス感染症に伴い、様々な点で例年とは違う一年となっております。学童野球においても、練習・試合が行う事が出来ない時期もありました。このような状況下において、本年も「SDGs 第3回新潟地区学童軟式野球大会」をおこなわせていただきました。皆様のご協力、大変感謝しております。

大会開催にあたり、参加チームの皆様には「参加費の一部をコロナ感染症対策関連の高付に充てさせていただく」事をお伝えしておりましたが、この度、寄付が無事に済みましたのでご報告をさせていただきます。

〈寄付先〉「新潟市新型コロナウイルス感染症対策協力基金」

【大会結果】SDGs 第3回新潟地区学童軟式野球大会

■ facebook

SDGs新潟地区 学童軟式野球大会



SDGs 新潟地区学童軟式野球大会

9月12日・日

9月12日、SDGs第3回新潟地区学童軟式野球大会の決勝戦・決勝の試合結果をお知らせします。

● 準決勝・第一試合
青山あすなみ 0-2010 3
新潟/ Ball 10000 1... もっと見る

編集を提案
これはSDGs 新潟地区学童軟式野球大会の正しいカテゴリですか?
スポーツイベント

はい わからない いいえ

写真
すべて見る

ページの見え方
Facebookはページの目的を詳しく理解するうえで役立つ情報を提供しています。コンテンツの管理や投稿をしている人が実行したアクションを確認できます。

ページの作成日: 2018年6月22日

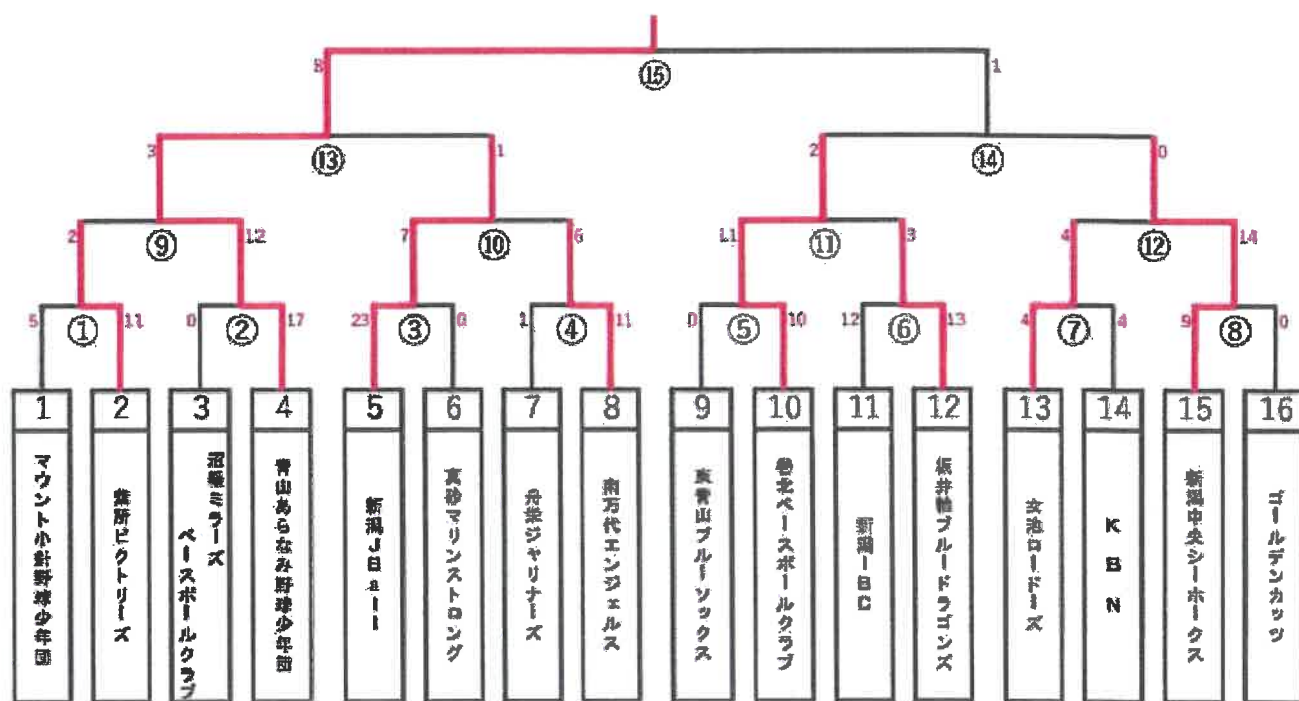
関連するページ

コメントする...

中村 紀彦
東北ベースボールクラブの中村です。新型コロナウイルスが騒がれるなかで大会を開催していただき、また暑いなか運営していただいた事務局の皆様、ありがとうございます。また本日の対戦していただきました新潟シーホークス、青山あすなみの皆様、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



SDGs第3回新潟地区学童軟式野球大会



優勝／青山あらなみ野球少年団



準優勝／巻北ベースボールクラブ



◆ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の為、今年は開会式をせず、チーム数も制限しての開催となりました。

期間中は、選手達が安心してプレーできるよう、独自のガイドラインを設け、参加チーム及びスタッフに周知徹底を図りました。

ベンチ入りメンバーは基より、観戦者に対しても健康チェックや検温を報告制とし、運営側だけでなくご参加いただいた方々も一丸となって感染防止対策をおこなうことができました。

ご協力いただきました皆様、大変ありがとうございました。

◆ こどもたちに長く野球を楽しんでもらうために

昨年に引き続き、NPO団体新潟予防医療実践会様のご協力で、無料の野球肘診断を行いました。

また試合でも「球数制限」を設けました。事務局でカウントし、1人の投手が投げられる球数は1日70球までとしました。



2020年10月吉日

SDGs新潟地区学童軟式野球大会実行委員会